

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○中川賀嗣 今井智子 太田亨 下村敦司 田村至 榊原健一 橋本竜作 福田真二 黒崎芳子
小林健史 前田秀彦 森元良太 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子 熊谷萌

【概 要】

言語聴覚学総論Ⅱに続く科目として、臨床実習に必要な臨床技能および態度を学ぶ。評価は、客観的臨床能力試験（OSCE）により行う。客観的臨床能力試験（OSCE）では、現実の診療現場を再現した状態で臨床能力を評価する。

【学習目標】

言語聴覚療法の専門知識と技術を、医療現場において適切に実施するために、言語聴覚療法プロセスを学習し、言語聴覚士としての基本的な技能と態度を行うことができる。

1. 発声・発語、高次脳機能、聴覚に関する正常構造と機能について説明できる。
2. 発声・発語、高次脳機能、聴覚障害のメカニズムについて説明できる。
3. 発声・発語、高次脳機能、聴覚障害を、科学的かつ医学的エビデンスで解析できる。
4. 発声・発語、高次脳機能、聴覚障害を評価できる。
5. 発声・発語、高次脳機能、聴覚障害に対する治療計画を立案できる。
6. 適切な医療面接を行うことができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	客観的実技試験（OSCE）について知り、その心構えを学ぶ。	全担当教員
2	医療面接、報告、診療録記載の基本	医療面接から各種検査を理解する。 医療面接、報告、診療録記載の基本を学ぶ。	全担当教員
3	発声・発語、高次脳機能、聴覚障害の基本	発声・発語、高次脳機能、聴覚障害に関する基本事項と体系的な考え方を学ぶ。	全担当教員
4	言語聴覚士に必要な基本的実技	発声・発語、高次脳機能、聴覚障害に関する基本的実技を身につける。	全担当教員
5	医療面接法	診療録記載等の基本を理解し、医療面接法を学ぶ。	全担当教員
6	成人発声・発語障害の評価	成人の発声・発語障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
7	高次脳機能障害の評価	成人の高次脳機能障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
8	成人聴覚障害の評価	成人の聴覚障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
9	総括	第1回～第8回講義内容の総括と習熟度の確認を行う。	全担当教員

【評価方法】

レポート課題 100%

【備 考】

教科書：各領域の講義で紹介された教科書および配付資料

【学習の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書または配布資料を読み、理解に努める。また、理解できない部分はチェックしておくこと。（80分）

復習は、授業範囲の教科書および配布資料を用い、また実技練習を通じて、講義で学習した内容を各自で深めること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。